

## 岡垣の教育 岡垣東中学校④

創立から10周年ころまで

岡垣歴史文化研究会 入江 東樹

創立2年次(昭和57年)は、生徒数540人、14学級でスタートした。

4月30日、校歌作詞者の栗原一登氏による記念講演「私の人生論」が行われた。

施設では多目的教室を普通教室に改造。運動場のスタンド工事竣工。体育館工事が竣工し、落成式が行われた。

部活動は、バスケットボール、テニス、バドミントン、バレーボール、野球、卓球、剣道、柔道、美術、演劇だった。

この年、バドミントン部が県大会と九州大会(宮崎市)に出場した。翌年、同部は県大会に出場し、女子の部(団体)で優勝した。陸上部とテニス部も県大会に出場した。

創立3年次のPTA(岩本松樹会長)発行の「東中PTA広報」6号では、成人教育委員会(両親学級)での「バッグ」作りや「七宝焼」作り、唐津への研修旅行、料理講習会など委員会活動のことが報告された。

また、2回の講演会が行われた。

7月の講演会では、講師に篠栗町の二ノ瀧寺住職相生公俊氏を招いた。①子どもは親の背中を見て育つ②耐えることが大事③どんなに忙しいときでも、子どもの話を聞いてやることを強調された。

11月の講演会では、講師に北九州大学教授の高田清昭氏を招いた。「新しい時代の教育問題」の題で「…親は一生、子どもの担任である。」と話された。

補導委員会では、夏休みと冬休みの校外補導、地区懇談会などが報告された。

広報委員会では「東中PTA広報」発行のことが報告された。

創立から5年間の勤務された高山彰二氏は、当時の思い出を「岡垣中から2校分離で両校に通学した生徒は、いろいろ大変でした。」

部活動のチームは二分割され、ハンディを背負いましたが、日々の練習に励みました。中学校卒業後の進路に向けても、励まし合いながら勉強し、教員とともに苦難を乗り越えました。



(写真) 第3回体育会 第3期卒業アルバムから

創立3年次から、岡垣中を知らない生徒だけの新生岡垣東中のスタートです。体育館も完成し、真新しいフロアで体育の授業や部活動ができるようになりました。施設などが整備され、活気あふれる校風が構築されはじめました。

学校行事の体育会では、組み立て体操で、五段のピラミッドを支えなしで組み立てる筋力と精神力を見せました。

スケッチ大会では、校外の自然を思い切りキャンパスに描くこと

ができるおらかな時代でした。さらに、夏休みの九重キャンプが始まりました。慣れないテント生活での飯ごう炊飯や早朝からの久住登山、そういう困難に打ち勝つ忍耐力を持ち合わせていた生徒たちでした。

パワーを持った第2期生は、先日同期会を開き、盛会でした。今後、ほかの学年でも同期会が行われることを期待しています」と述べている。